

『自己を見つめ、他人を思いやる心の育成』

あま市立七宝中学校

1 目 的

- (1) 学年行事や学校行事への積極的な参加を通して、自他の良さを認め合い、ともに成長していこうとする豊かな心を育てるとともに、主体的に解決していこうとする態度を養います。
- (2) 基礎学力の定着を図るとともに主体的に学ぶ意欲や態度の育成に努めます。
- (3) 自他の命に向き合う時間を、道德の時間や各教科の授業、講演会等の行事としても設け、自他の命や人権を大切にする意識、態度、実践力を養います。
- (4) 全校生徒対象に「しっぴータイム」やハートヘルスタイム講演会を設け、他者とかかわりの中でよりよい人間関係をつくるためのコツや技術を習得させるとともに、自己を見つめ、自己肯定感・自尊感情を育みます。また、授業力の向上、いじめ・不登校への対応など職員の資質向上を図ります。

2 内 容

(1) しっぴータイム

「しっぴータイム」を取り入れて9年目となりました。「しっぴータイム」とは、ソーシャルスキルトレーニングと構成的グループエンカウンターを組み合わせた活動で、他者とかかわりながらよりよい人間関係を築くためのコツや技術を習得させるとともに、自己肯定感や自己有用感を高めることを目的とした1回10分の活動です。本校では、週時程に組み込み毎週月曜に行っています。「しっぴータイム」は、テーマに合わせて交流し、対話的な柔らかい雰囲気に包まれます。

また、「しっぴータイム」を継続してきたことで獲得した力を、各教科で生かす場として授業展開の中に「しっぴートーク」を設けています。学習指導要領が変わり、今まで以上に身に付けた知識技能を活用し課題を解決する力が求められていますが、「しっぴートーク」を取り入れることにより、他者とかかわりが深まり、協働して各教科のねらいに迫ることができると考え取り組んでいます。

(2) 異年齢集団の編成（縦割り）による学校祭

全校を縦割りにしたブロック制で行っている学校祭は、毎年大いに盛り上がります。学校祭は体育祭と文化祭を2日間で行っており、体育祭は学年競技に加え、ブロックパフォーマンスとブロック対抗競技を、文化祭は合唱コンクールや吹奏楽部演奏、有志発表を行っています。

学校祭の準備は、学校祭テーマをデザインしたモザイク画の作成から始まりました。



【学校祭テーマ 結心走勝】

モザイク画とは、体育館の舞台一面に掲げる縦4m×横10mの壁画のことで、生徒一人一人がデザインの一部分を担当して色を塗り、それを有志ボランティアが貼り合わせて仕上げるものです。この制作を通して生徒たちは、大勢の力で一つのものを作り上げると一人では到底できないような迫力のある作品ができることを感じたり、達成感を味わったりしました。また、ブロックパフォーマンスやブロック合唱の練習を通して、ともに認め合い、励まし合いながら互いの友情を深め、団結して学校祭をつくりあげることができました。

(3) 基礎学力の向上

基礎学力の向上のため、日々の授業や朝学習の時間などを利用して、できるだけ数多くの多様な問題に触れられるようにしています。学習全般では、目的にあわせて紙面とタブレット端末を使い分けて学びました。受験を控えた3年生は、毎日の朝学習としてタブレット端末を用いた問題演習をできるようにしています。生徒個々のペースに合わせて解き進められるように工夫しています。全員同じ紙面に一斉に取り組む学習とは異なるメリットが感じられました。

(4) ハートヘルスタイム講演会

11月17日(金)岐阜大学名誉教授の近藤真庸氏を講師にお招きし、「いまを生きる！夢を叶える！」を演題に、ハートヘルスタイム講演会を開催しました。ご自身の体験を交えながら、「人生どっちに転んでも吉」と、堂々と夢に向かって人生を歩んでほしいとお話してくださいました。全校生徒、職員、保護者の約450人が、近藤先生のお話に聞き入っていました。



【講師：近藤真庸氏と講演会の様子】

(5) 指導力の向上

教職員の指導力向上を図るため名城大学の曾山和彦教授を講師に招き、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めることをテーマとした現職教育を7月と11月に行い、本校の職員だけでなく、近隣の小中学校や県内外の先生方も参加し、研修を深めました。他者とかかわり合いながら自尊感情を高めよりよい自己実現を目指して主体的に学ぶことができる生徒の育成のため、曾山先生には全学級を参観していただきご指導いただいています。複数年にわたってご指導いただいているため、本校の状況をしっかりと踏まえた上で、現状を改善するためのアドバイスをいただくことができました。

3 評 価

- ・ 学校祭における縦割りブロック活動は、生徒自身が考えたブロックパフォーマンス、ブロック合唱を通して、学年の垣根を越えて励まし合ったり、教え合ったりする姿が多くみられました。1、2年生の生徒は、3年生の指示に耳を傾けながら先輩の姿をよく見て行動しました。
- ・ 「しっぴータイム」の継続的な取組に加えて、ハートヘルスタイム講演会などを行うことで、生徒の自己肯定感、自己有用感の高まりの一助となりました。授業においても、話し合い活動が定着し、活発な意見交換ができるようになってきました。
- ・ 授業や朝学習など、タブレット端末をはじめとしたICTを活用し、少しずつですが学びを定着させることができてきました。

4 課 題

- ・ 「しっぴータイム」でかかわりの力を身に付けつつ、自尊感情を育むために、かかわり合いや振り返りに深まりをもたせていくこと。
- ・ 授業における学びの深まりを生み出せるような工夫が必要であること。「しっぴートーク」だけでなく発問の仕方や授業展開についてさらに研修を重ね、教科の学びにつなげていくこと。